
令和4年度 事業報告書

(令和4年4月1日から令和5年3月31日まで)

学校法人 和田実学園

目 白 幼 稚 園

東京教育専門学校

目次

1. 法人の概要	2
1.1 基本情報	2
1.2 建学の精神	2
1.3 沿革	2
1.4 設置する学校	4
1.4.1 園児・学生	4
1.4.2 収容定員充足率	4
1.5 役員の概要	4
1.6 評議員の概要	5
1.7 教職員の概要	6
1.8 施設等	6
2. 事業の概要	7
2.1 東京教育専門学校	7
2.1.1 重点目標	7
2.1.2 教育活動	8
2.1.3 学習成果	9
2.1.4 学生支援	10
2.1.5 教育環境	11
2.1.6 地域社会・卒業生への貢献	11
2.2 目白幼稚園	12
2.2.1 保育実践について	12
2.2.2 園児募集について	12
2.2.3 地域連携について	12
2.2.4 保育環境について	12
2.2.5 その他	12
2.3 法人	13
2.3.1 理事会の開催状況	13
2.3.2 評議員会の開催状況	14
2.3.3 理事会における重要審議事項と決議内容	14
3. 財務の概要	16
3.1 貸借対照表の概要	16
3.2 資金収支計算書の概要	16
3.3 事業活動収支計算書の概要（2022年度）	16
3.4 5年間推移（2018～2022年度）	17

1. 法人の概要

1.1 基本情報

名 称	学校法人 和田実学園
所在地	171-0031 東京都豊島区目白二丁目 38 番 4 号
電話番号	03-3983-3385
FAX 番号	03-3983-3386
ホームページ	http://www.wadaminoru.ac.jp/

1.2 建学の精神

本学園は、幼児教育を教育学の体系に位置づけて科学的に論じて、日本における独自の保育学を主張した和田實によって創設された。和田實は理想とする保育を実践するために、大正 4（1915）年に目白幼稚園を設立後、理想とする保育を実践するためには良い保育者の必要性を痛感して、昭和 5（1930）年に現在の東京教育専門学校を創設した。そして、和田實はその一生を幼児教育並びにその指導者の養成に捧げ、その道に進む人に多くの道標を残した。

創設者：和田實とその遺志を引き継がれた芦田昇に依って示された建学の精神「知性と愛と自由」。幼稚園においては、その精神に満ちた善良な市民としての人格の基礎を培う幼児教育思想を実現実践し、東京教育専門学校においては、教育理念として「感謝・尊敬・寛容を中心とした性格陶冶を基礎条件とした誘導的方法による幼児教育」を明確に位置づけ、「その教育理念を理解し、職業人・社会人として必要な資質の完成を目指すため、出会う人と共に感動を共有しながら地域社会に貢献できる人材の育成」を教育目標として、創設以来、有為な人材を数多く輩出してきた。

建学の精神については、令和元年度の和田實研究委員会が中心となり、建学の精神の表現についての検討を行い、文案を作成した。今後とも和田實研究委員会、評議員会等で適正な表現となっているかの確認を行っていく。

1.3 沿革

大正 4(1915)年	目白幼稚園を開園(東京府北豊島郡高田町＝現在地)。 初代園長に和田實が就任。
大正 5(1916)年	東京府知事より目白幼稚園の認可を受ける。
昭和 5(1930)年	目白幼稚園保姆養成所を開校(東京市淀橋区下落合)。 初代所長に和田實が就任。 目白第二幼稚園を開園。初代園長に和田實が就任。

昭和 7(1932)年	和田實著『実験保育学』が出版される。
昭和 9(1934)年	「目白幼稚園保姆養成所」を「東京目白保母学校」へ名称変更。
昭和 18(1943)年	和田實著『保育学』が出版される。
昭和 19(1944)年	目白幼稚園は建物強制疎開のため閉園。 第二目白幼稚園は戦時託児所となる。
昭和 20(1945)年	戦災で校舎焼失のため休校。
昭和 25(1950)年	「東京目白保母学校」を「東京教育専修学校」へ名称変更し 再開。目白幼稚園内にて 1 部(昼)・2 部(夜)制となる。
昭和 26(1951)年	学校法人 目白保育学園を設立。初代理事長に和田實が就任。 文部大臣指定の幼稚園教員養成機関となる。
昭和 33(1958)年	教育職員免許法の改正により 2 年制となる。
昭和 39(1964)年	目白幼稚園・東京教育専修学校の校舎を改築。
昭和 40(1965)年	新校舎が完成。幼稚園 50 周年、学校 35 周年を迎える。
昭和 43(1968)年	新校舎を 3 階まで落成(新宿区下落合)。
昭和 44(1969)年	1 部(昼)は、保母資格の取得が可能となる(厚生大臣認可)。
昭和 51(1976)年	「東京教育専修学校」を「東京教育専門学校」へ名称変更。 下落合校舎 5 階まで増築。
平成 2(1990)年	「学校法人 和田実学園」へ名称変更。 専門学校創立 60 周年を迎える。
平成 7(1995)年	専門士の称号付与校となる(幼稚園教諭・保母養成科)。 幼稚園創立 80 周年を迎える。
平成 11(1999)年	幼稚園教諭・保育士養成科へ科名変更。 2 号館校舎を開設(新宿区下落合)
平成 12(2000)年	専門学校創立 70 周年を迎える。 新教育課程の認可を受け、1・2 号館での授業を開始。
平成 17(2005)年	幼稚園創立 90 周年を迎える。
平成 19(2007)年	和田實著『幼児教育法』現代語版が発行される。
平成 21(2009)年	新園舎・新校舎を落成(豊島区目白)。2 号館校舎を閉鎖。
平成 23(2011)年	和田實生誕 135 周年記念・幼児教育研究会を行う。
平成 27(2015)年	幼稚園創立 100 周年記念式典を行う。
平成 28(2016)年	下落合校舎(1 号館)を閉鎖。

1.4 設置する学校

設置する学校	学校設置認可
目白幼稚園 (東京都豊島区目白二丁目 38 番 4 号)	大正 4(1915)年 11 月 1 日
東京教育専門学校 (東京都豊島区目白二丁目 38 番 4 号)	昭和 5(1930)年 8 月 19 日 (旧名称：目白幼稚園保姆養成所)

1.4.1 園児・学生

(令和 4 年 5 月 1 日現在 単位：名)

区 分	収容定員数	在籍園児・学生数
目白幼稚園	100	40
東京教育専門学校	300	194

1.4.2 収容定員充足率

(毎年度 5 月 1 日現在)

区 分	平成 30 年	平成 31 年	令和 2 年	令和 3 年	令和 4 年
目白幼稚園	24%	29%	31%	38%	40%
東京教育 専門学校	60% (内訓練生 10%)	73% (内訓練生 20%)	80% (内訓練生 23%)	70% (内訓練生 27%)	65% (内訓練生 20%)

1.5 役員の概要

定員数：理事 6 名、監事 2 名 / 現員：理事 6 名、監事 2 名 (令和 5 年 3 月 31 日現在)

区 分	氏 名	就任年月日	常勤・非 常勤の別	主な現職等
理事長	北原 隆史	(理事) 平成 29 年 4 月 1 日 (理事長) 令和 3 年 3 月 8 日	常 勤	東京教育専門学校 校長
理 事	近喰 晴子	令和 3 年 3 月 27 日	常 勤	目白幼稚園 園長 東京教育専門学校 副校長
理 事	島本 悦次	平成 11 年 4 月 1 日	非常勤	病院理事長、学園園医 …令和 5 年 2 月逝去
理 事	西島 義昭	平成 23 年 4 月 1 日	非常勤	弁護士
理 事	中野 宏	平成 29 年 6 月 1 日	非常勤	元会社役員
理 事	和田 志郎	令和 3 年 5 月 1 日	非常勤	研究者
監 事	平井 久雄	平成 22 年 4 月 1 日	非常勤	会社役員
監 事	峯 岩 男	令和 4 年 4 月 1 日	非常勤	幼稚園園長

1.6 評議員の概要

定員数:16名 / 現員:16名

(令和5年3月31日現在)

氏名	就任年月日	常勤・非常勤の別	主な現職等
北原 隆史	平成29年4月1日	常勤	学校法人和田実学園 理事長 東京教育専門学校 校長
島本 悦次	平成15年4月1日	非常勤	病院理事長、学園園医 …令和5年2月逝去
会田 朋世	平成29年4月1日	常勤	東京教育専門学校 副校長
近喰 晴子	令和2年4月1日	常勤	目白幼稚園 園長 東京教育専門学校 副校長
藤村 公三郎	令和3年4月1日	常勤	学校法人和田実学園 総務部長
門山 京子	令和3年4月1日	常勤	目白幼稚園 教諭
門山 タツヤ	令和3年3月27日	非常勤	
島根 恵	平成18年4月1日	非常勤	音楽家
行木 友子	平成20年4月1日	非常勤	保育園施設長
西田 祐恒	平成26年4月1日	非常勤	保育園園長
大沼 郁子	令和2年4月1日	常勤	目白幼稚園 副園長
和田 志郎	令和3年3月27日	非常勤	研究者
町田 章一	平成14年4月1日	非常勤	大学教授
石田 啓子	令和2年4月1日	非常勤	会社役員
森 光子	令和2年4月1日	非常勤	会社役員
藤田 興彦	令和2年11月1日	非常勤	財団法人協会参事

1.7 教職員の概要

(令和5年3月31日現在 単位:名)

区 分	教 員		職 員		計
	本務	兼務	本務	兼務	
目白幼稚園	4	1	0	5	10
東京教育専門学校	11	25	6	4	46
合 計	15	26	6	9	56

1.8 施設等

(令和5年3月31日現在)

所在地：東京都豊島区目白二丁目38番4号

土 地：906.32 m²

建 物：鉄骨・鉄筋コンクリート造

陸屋根地下2階付7階建て

区 分	種 別		床面積
目白幼稚園	園 舎	1階建	402.06 m ²
	園 庭	第1園庭、第2園庭	633.09 m ²
東京教育専門学校	校 舎	7階建(2～7階)	1692.48 m ²
幼稚園・学校	地下ホール	地下1、2階	537.63 m ²

2. 事業の概要

2.1 東京教育専門学校

2.1.1 重点目標

(1) 高等教育無償化制度対象機関としての継続

- ①財務状況の公表（法人）
- ②自己点検評価の充実、学校関係者評価の実施と公表
 - ・各委員会、部署による自己点検・評価の基本方針、対策の確立
 - ・学生の主体的な学修を促すための工夫への点検評価
 - ・学生自身の達成度・満足度に関する認識の把握
 - ・実効的な PDCA サイクルの確立による内部質保証システムの構築
 - ・学校関係者評価委員の選出と学校関係者評価の実施（感染症対策として文書での実施）
 - ・学校関係者評価の公表
- ③評価のあり方の検討
 - ・個々人の学修成果の見える化の検討
 - ・成績評価の客観的指標化 GPA（平均評価点数）の導入

以上、申請のための条件を整え、令和 5 年度においても高等教育無償化対象校として承認された。

(2) 学生募集のあり方の強化

- ①AO 募集の強化：個別での説明会の強化
- ②保育講座、体験授業、個別見学会、入試相談会の充実
- ③高校説明会の回数の確保
- ④ライバル校の HP から本校 HP への誘導

といった昨年度の方針を踏襲しながら、学生募集の組織を強化し、専任講師全員による高校訪問の強化を図ったが、かなり厳しいものとなった。原因として以下のものが挙げられた。

- ①社会的な保育者へのネガティブな印象が強く広がった
- ②広報力のある専門学校への流れを変えられなかった
- ③本校の魅力を明確に伝えきれなかった

これらを踏まえ、令和 5 年度に向けて学校案内や HP の全面的改訂を実施し、学生の協力のもとチーム TKS を設立し、積極的な募集広報活動を展開するとともに、同窓会との連携を強化し、卒業生の積極的な協力の要請をしていく。

令和4年度の募集結果は、志願者数82名（内男性11名）、受験者数82名（内男性11名）、合格者数82名（内男性11名）、入学者数80名（内男性11名）であった。

入学者80名の内訳は、下記の通りとなっている。

- ・AO入試 : 37名（令和3年度34名、令和2年度46名）
- ・推薦／指定校推薦 : 14名（令和3年度27名、令和2年度16名）
- ・一般入試 : 2名（令和3年度5名、令和2年度9名）

合計53名（令和3年度66名、令和2年度71名）の合格者、1名の辞退者で、52名の一般学生の入学となり大幅な減少となってしまった。このことを真摯に受け止め、上記の通り、募集活動のさらなる工夫と新たな取り組みを実施していく。

令和3年度から東京都にある全てのハワーワークへの訪問を、全教職員で今年度も実施した。

また、1月の訓練生説明会の回数の増加、夕刻からの開催も実施し、より多くの方に2つの資格（幼稚園教諭免許・保育士資格）が取得できることのメリットと、そのことによる負担についての正確な情報提供、本校養成教育の歴史や特徴を伝えた。

しかし、令和4年度において、訓練生の募集枠が40→30名の上限となり、30名の確保はできたが、結果として29名が訓練生として合格、1名の辞退者があり、28名が入学となった。

したがって、令和5年度の新1年生は80名でスタートした。また、新2年生は97名、Eクラス9名で、合計186名（令和4年度194名）でスタートしている。

[令和5年度 在学者数]

第1学年次	: B・Dクラス	80名（内男性11名）
第2学年次	: A・C・Eクラス	106名（内男性12名）

(3) 就職支援、キャリア教育支援、卒業後支援の強化

今年度から取り組んだキャリアコンサルタントによるキャリア教育支援は、残念ながら機能することができなかったが、新たな就職支援体制で、卒業生就職懇談会（7月9日実施）、日常的なキャリア支援の充実、外部講師によるマナー講座の開催などを通して、就職支援を充実させることができた。

令和5年度は、キャリアコンサルタントによるキャリア支援を再度導入すると共に、新たな求人検索システムを導入し、より円滑な就職支援に繋げてゆく。

2.1.2 教育活動

本学園の教育理念を「感謝・尊敬・寛容を中心とした性格陶冶を基礎条件とした誘導的方法による幼児教育」として明確に位置づけ、「その教育理念を理解し、職業人・社会人として必要な資質の完成を目指すため、出会う人と共に感動を共有しながら、地域社会に貢献できる人材の

育成」を教育目標としている。

令和4年度においても新型コロナウイルス感染症の蔓延状況は継続したが、令和3年度までの蓄積してきた教育方法のあり方の工夫により、対面授業・遠隔授業を併用し、充実した養成教育は確保できた。入学式（予定通りの日程で、保護者・来賓なしで実施）を始め、保育祭（12月23日実施）など、実施内容・実施日を大幅に変更して教育活動を進めた。昨年度のあり方を踏襲しながら、発展的に地下ホールの他、教室も使用し、目白幼稚園の園児も招待して、対面で催し物も行うことができた。

体育祭（5月10日実施）は3年ぶりとなったが、以前まで使用していた東京武道館にて行う事ができた。学生は全く経験をしていない行事であったが、2年生の実行委員が中心となり、以前と同様な素晴らしい雰囲気での体育祭となった。キャンプ実習は、参加学生・スタッフ全員の陰性証明を条件として8月中旬に実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症の再拡大により、宿泊を伴う活動への安全性の確保が難しいという判断から中止となった。

授業は、昨年度と同様に学年別の分散登校を実施し、8回の対面授業、7回の遠隔授業で行った。授業回数の確保のため、学事日程や時間割りの変更、補講の調整を行った。期末試験も昨年度同様に対面での一斉試験で実施した。実習に関しても予定通りに実施することができた。

[令和4年度 卒業生数等]

卒業者数 79名（内 男性8名）

留年者数 9名（内 男性1名）

休学者数 6名（内 男性1名）

退学者数 8名

除籍者数 1名

2.1.3 学習成果

ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーの3ポリシーをもとに、認可された保育者養成課程に基づき、教育活動に取り組んでいる。

各授業においては、令和4年度も遠隔授業と対面授業の併用であったが、今まで蓄積してきた在り方を活かしながら、到達目標及びテーマを明確に明文化し、主体的に取り組むことができた。

保育者としての資質として「職業人としての意識」、「共存・協力しながら育っていく姿勢」、「コミュニケーション能力」、「健康管理・生活管理」など、教育課程や教育課程外の活動を通して育むことの学習成果は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、段階的に活動が再開でき、令和3年度の状況より、さらに充実度は向上したと思われる。

成績に関しては、令和2年度からGPA（平均成績）を視野に入れた成績評価を実施し、学習成果の可視化を図った。また、GPA（平均成績）の成績が下位1/4の学生には、個別指導・支援を実施している。

しかしながら、養成教育のあり方の更なる見直しと共通認識の確立は重要な課題であり、学生募集の状況からも、養成教育の充実と学生生活の満足度の向上は、最重要課題として取り組んで

いきたい。新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、一変してしまった養成のあり方から、今一度令和元年度のカリキュラム改定での基本方針に立ち戻り、養成教育のあり方を見直していくことが必要である。このような状況において、進路決定者の96.0%が幼稚園教諭2種免許、保育士資格を活かした就職先であった。また、2名は進学している。

令和5年度は、原則的に全て対面授業とし、さらに1年生・2年生同時に授業を実施する。教育課程外の活動に関しても、今までの工夫や柔軟な発想を持って安全を確保しつつ、全ての活動を再開・実施する方向で考えていく。

2.1.4 学生支援

(1) 進路支援の充実

保育者養成校として、資格取得と共に保育現場への就職支援は、職業人を養成する専門学校としての責務であり、より一人ひとりにマッチしたきめ細やかな進路に対して支援が求められる。

保育現場の現状としては、待機児童という状況はほとんど無くなり、むしろ定員に満たない園も増えている。しかしながら、保育者の人手不足解消とまでは至っておらず、地域差はありながらも求人件数は多い（令和4年度 求人件数 1,685件、令和3年度 求人件数 1,606件）。この状況においてミスマッチを少なくし、希望する現場へ繋げられる支援は難しい状況は続いている。

令和3年度において、企業保育への就職率が令和2年度の12.6%→19.4%と上がってしまったことが大きな反省点であり、個別指導の在り方、就職状況の情報、求人情報の共有する必要性が課題であった。就職支援を強化する体制を整えることにより、令和4年度においては、企業保育への就職率を3.9%と大幅に少なくすることができた。

また、幼稚園への就職率増加も、幼稚園教諭免許取得可能な養成校として重要な課題であり、継続的に支援体制を強化していきたい。令和5年度も厳しい就職状況を踏まえ、さらに充実させ、円滑な進路支援体制にしていく。

令和4年度は、就職希望学生数77名中、75名が進路決定をした。

3月末時点での就職率は97.4%（令和3年度95.1%、令和2年度86.4%）であった。

その内訳は下記の通りである。

幼稚園	14名	18.2%	(令和3年度12.2%)
保育園	37名	48.1%	(令和3年度46.9%)
こども園	4名	5.2%	(令和3年度3.1%)
施設	8名	10.4%	(令和3年度11.2%)
企業保育	3名	3.9%	(令和3年度19.4%)
公立施設	6名	7.8%	(令和3年度6.1%)
一般企業	3名	3.9%	(令和3年度1.0%)

この他、進学が2名、就職を希望しない学生は0名であった。

(2) 各種奨学金の対応による経済支援

和田実奨学金及び保険会社による奨学金の給付を実施した。

(3) 健康状態の把握

健康診断は4月16日に実施した。検査項目は、胸部デジタル撮影、身体測定、視力、尿検査、血圧、診察である。また、オリエンテーションにおいて「健康に関する調査」を実施し、学習環境や生活面で気になる学生に対して、担当教員が個別に面談をして支援した。

2.1.5 教育環境

昨年度と同様、安全な環境を確保するため、学年別での対面授業を実施した。

手指の消毒はもちろん、教室での換気の徹底、使用した教室の机・椅子・ドアノブ等の消毒の徹底の他、大教室での空間除菌機の導入は継続している。また、登校時に検温できるように体温計測器を継続して設置した。小教室及びピアノレッスン室には、継続してプラズマクラスター発生機能の空気清浄機を導入している。

令和4年度に実施した教育施設整備として、地下ホールの照明のLED化、令和5年度から1年生・2年生同時対面授業の実施ができるよう6階の教室に一人用の机を導入した。

2.1.6 地域社会・卒業生への貢献

(1) 研修施設としての充実

①保育士等キャリアアップ研修プログラムの実施

8月22日(月)～8月24日(水) 「障害児保育」分野

8月24日(水)～8月26日(金) 「保健衛生・安全対策」分野

②各幼児教育・保育関連団体、その他文化活動団体へ施設の開放

子どもの文化研究会、青山シンフォニーなど

保育士等キャリアアップ研修は「障害児保育」「保健衛生・安全対策」の2分野を昨年度と同様に実施した。「和田実研究会」は、残念ながら実施できなかった。

その他の施設提供事業は、子どもの文化研究会への施設提供をはじめ、オーケストラの練習等施設の利用が令和3年度より増加した。

(2) 図書室の開放

目白幼稚園の園児が自由に図書室を利用することができるように開放した。

また、近隣の保育園(目白ひかり保育園)の園児が、定期的に図書室を利用することができるように開放した。

2.2 目白幼稚園

2.2.1 保育実践について

- ・コロナ禍で中断していた保育活動を再開し、園児の経験値を広げる努力をした。
…親子遠足の再開(新宿御苑)、七夕遊戯会(保護者参観)、クリスマス会(保護者参観)
全員参加による運動会の実施
- ・幼児健康体育の導入(身体機能の促進と身体の基本的な動き)
- ・園児の主体的な活動を支え、豊かな遊びが展開できるよう環境を整えた。
- ・大学生と ZOOM による交流を実施した。
- ・図書室での絵本貸出を実施、絵本バックも作成した。
- ・大型プール、足元噴水、水鉄砲などを購入し、水遊びの充実を図った。
- ・飼育、栽培活動を再開した。
- ・第 2 園庭に遮光ネットを設置した。これにより、遊び活動が活発になった。

2.2.2 園児募集について

- ・年間を通して見学者の受け入れを行った。
- ・おひさまクラブ(未就園児の体験保育)を実施。15 組の親子が参加した。
- ・HP の閲覧のみで入園を決めた保護者もいて、HP の充実の必要性が求められる。
- ・入園園児数(令和 3 年度 38 名、令和 4 年度 42 名)と微増傾向であった。
保育園からの転園者の 3 名が入園を辞退された事については、今後の課題として検討の必要性がある。

2.2.3 地域連携について

- ・木曜日を、園開放日とし「園児と一緒に遊びませんか」と呼びかけた。
- ・豊島区私立幼稚園連合会の会合会場として提供した。
- ・目白駅美化同好会に加入し、活動を側面から支えた。
- ・目白小学校との交流に参加し、情報共有する機会を得た。

2.2.4 保育環境について

- ・補助金を利用し、目白幼稚園と地下ホールの照明の LED 化を実施した。
- ・足洗い場の整備及びヒートポンプの修理を実施した。

2.2.5 その他

- ・東京教育専門学校との連携を強化、見学・観察実習を中心とした学生との交流、図書貸出、学校探検など施設を活用した取り組みを行った。
- ・長年、本園教育活動に貢献された門山京子先生、志摩麻子先生が一身上の理由で退職された。後任として新たに川崎知子先生を採用した。志摩先生の後任は、鈴木一夫講師が担当することになった。

2.3 法人

2.3.1 理事会の開催状況

	開催日	審議事項
第1回 (定例)	令和4年4月21日	学園状況報告 令和4年度 第1回評議員会開催について 隣地施設「童夢」の外壁補修について 理事長選任について
第2回 (定例)	令和4年5月23日	学園状況報告 令和4年度 和田実奨学金給付学生について 令和3年度 決算報告について 令和3年度 事業報告について 令和4年度 第1回評議員会開催について
第3回 (定例)	令和4年6月21日	学園状況報告 屋上の時計について 令和4年度 第1回評議員会 開催報告 人事案件について
第4回 (定例)	令和4年7月19日	学園状況報告 学園組織の改編について
第5回 (定例)	令和4年8月23日	学園状況報告 人事案件について 学園運営管理の改善案について 幼稚園園庭問題と新制度移行への方向性について 隣地施設「童夢」の外壁補修について
第6回 (定例)	令和4年9月27日	学園状況報告 学園管理組織(案)について 育児・介護休業等に関する規程について 幼稚園園庭問題と新制度移行への方向性について 隣地施設「童夢」の外壁補修について
第7回 (定例)	令和4年11月1日	学園状況報告 隣地施設「童夢」の外壁補修について 法人総務部の役員会運営・記録事務について
第8回 (定例)	令和4年12月16日	学園状況報告 隣地施設「童夢」の外壁補修の工事状況について
第9回 (定例)	令和5年2月20日	学園状況報告 令和5年度 予算案について 人事案件について 役員変更及び推薦者について 理事の競業承認について
第10回 (定例)	令和5年3月24日	学園状況報告 令和5年度 事業計画及び予算案について 評議員・理事の選任について 目白教育サービスについて
第11回 (臨時)	令和5年3月31日	学園状況報告 令和4年度 第2回評議員会 開催報告 令和5年度 事業計画及び予算案について 理事の選任について 任期満了に伴う新たな評議員の選任について

2.3.2 評議員会の開催状況

	開催日	審議事項
第1回 (定時)	令和4年6月11日	学園状況報告 令和3年度事業報告について 令和3年度決算報告及び監査報告について
第2回 (定時)	令和5年3月25日	学園状況報告 令和5年度事業計画及び予算案について 評議員・理事の選任について 目白教育サービスについて

2.3.3 理事会における重要審議事項と決議内容

(1) 育児・介護休業等に関する規程の改正について

「育児・介護休業法」の改正に伴い、育児休業をより取得しやすくするための環境整備が義務付けられ「育児休業の分割取得」「夫婦間での交代取得」などにも対応するため「改正育児・介護休業法施行規則及び改正指針」に基づき、見直しと記載内容を変更することを審議し決議した。

(2) 企画室の設置および企画会議による組織的な学園組織の改革について

従来の管理組織規程を基本とした学園組織改革案を審議し決議された。具体的には、理事会直下に学園運営会議を設置するとともに、法人本部を法人総務部とし、さらに法人総務部を2階へ移動し、経理・総務業務の抜本的な見直しと効率化を図った。

これにより、学園懸案事項を組織的に取り組む体制が整った。

(3) 隣地施設「童夢」（現在「古里」として利用）の外壁補修について

隣地施設「童夢」の外壁が剥がれかかっている状況となり、周辺への安全性を考慮し、早急な補修工事の実施を決定。施工業者の見積りをもとに審議検討し、工事業者を選定決議した。

(4) 役員変更及び推薦者について

理事・評議員であった島本悦次氏のご逝去、評議員であった門山京子氏の退職に伴う欠員について、理事会からの推薦として、立岡憲久氏（事務長）・大澤力氏（非常勤講師）を1号評議員として選任を評議員会に依頼することを決議した。また、評議員・法人総務部長・専任講師である藤村公三郎氏を2号理事として、評議員会に推薦することを決議した。

令和4年度末にて任期満了に伴う新たな評議員案について検討し、2号評議員であった門山タツヤ氏・行木友子氏、3号評議員であった森光子氏については任期満了にて解任した。

新任2号評議員として、宮崎豊彦氏・塚田剛士氏を選任、新任3号評議員として、小原敏郎氏を選任することを決議した。また、その他の1号評議員については再任することを評議員会に推薦し、2号及び3号評議員については再任することを決議した。

(5) 目白教育サービスの未収金について

目白教育サービスの未収金 8,960,750 円を徴収不能引当金として処理することを審議し、決議した。

(6) 令和5年度 事業計画及び予算案について

令和5年度 資金収支予算：収入 257,798,000 円

支出 257,009,000 円 差額 780,000 円

①人件費予算として

- ・ 定期昇給あり
- ・ 賞与 0.5 ヶ月
- ・ 役職手当の削減（校長・園長手当 70%削減）
- ・ 教育研究経費・管理経費は、基本的に令和4年度実績の予想値

②設備関係予算として

- ・ 講師室の複合機交換、
- ・ 505 教室にある 24 時間換気の修理
- ・ 防犯カメラシステムの修理
- ・ 消防設備バッテリー交換
- ・ 非常用照明バッテリー交換
- ・ 幼稚園のスライドドア修理 など、11,029,000 円を計上。

③図書購入支出として、483,000 円を計上。

【事業計画としての重点課題】

- ①学生募集・園児募集のさらなる強化
- ②幼稚園の園庭問題の解決策
- ③就職支援・キャリア教育支援・卒業後支援の強化
- ④教育施設設備の整備計画
- ⑤保育者養成教育の充実と学生生活の満足度の向上
- ⑥寄付金事業周知のための広報活動の充実
- ⑦新たな学科・コース、訓練事業等の具体的な検討・導入
- ⑧学納金の値上げについての具体的な検討・導入

評議員会で出された意見を踏まえ審議した結果、上記の通り決議された。

3. 財務の概要

3.1 貸借対照表の概要

(単位：千円)

	令和3年度	令和4年度	増減
固定資産	1,094,195	1,039,119	△ 55,076
うち有形固定資産	1,062,796	1,007,306	△ 55,490
流動資産	118,210	93,885	△ 24,325
資産の部合計	1,212,404	1,133,004	△ 79,401
固定負債	749	1,163	414
流動負債	91,484	76,571	△ 14,913
基本金	1,827,349	1,828,315	966
繰越収支差額	△ 707,178	△ 773,045	△ 65,867
負債及び純資産の部合計	1,212,404	1,133,004	△ 79,401

3.2 資金収支計算書の概要

(単位：千円)

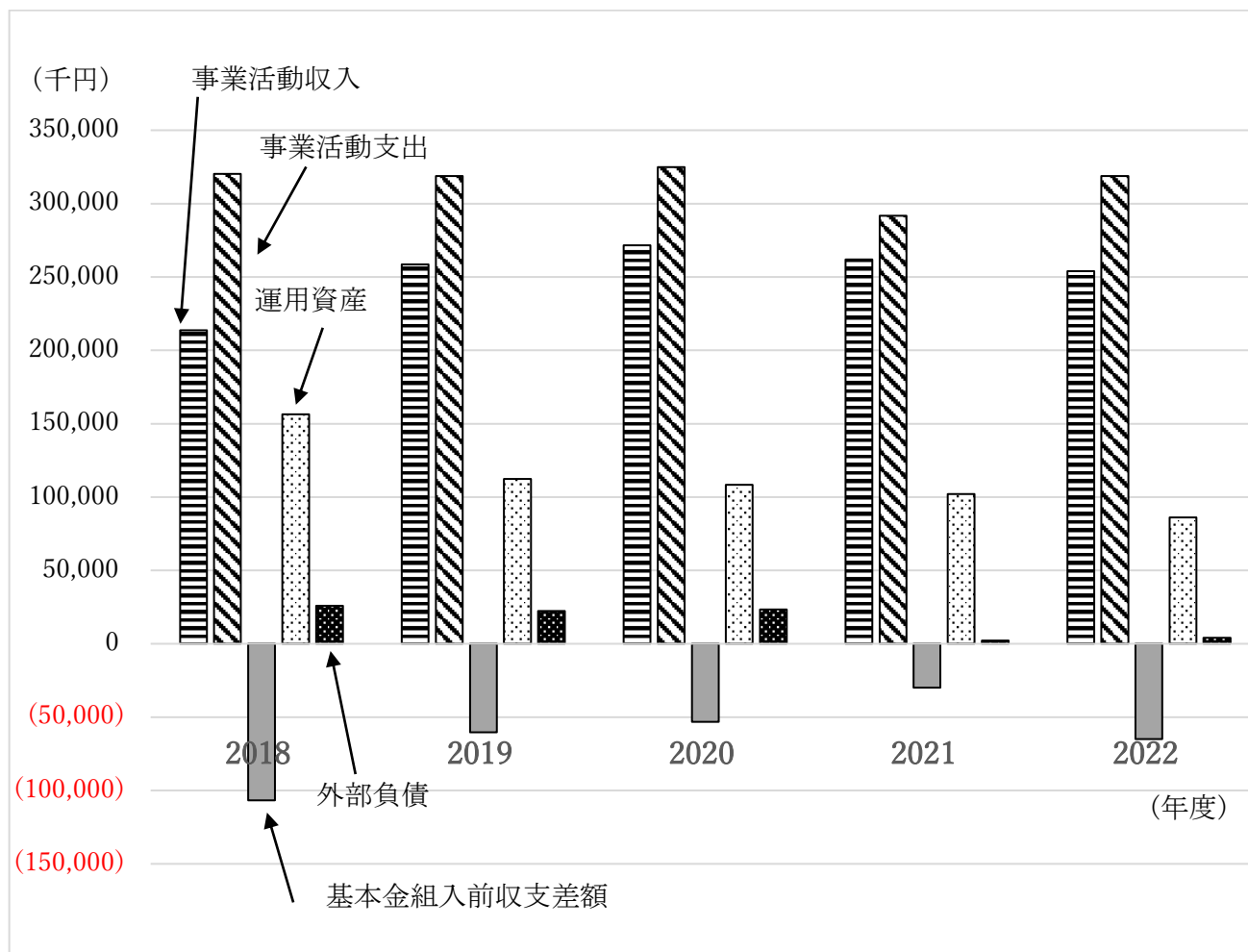
	令和3年度	令和4年度
収入総額(=支出総額)	400,788	383,240
うち翌年度繰越支払資金	85,567	69,067

3.3 事業活動収支計算書の概要(2022年度)

(単位：千円)

		法人	幼稚園	専門学校	全体
教育活動 事業収支	収入	3,063	43,502	207,207	253,773
	支出	20,483	45,105	253,187	318,775
	差額	△ 17,420	△ 1,603	△ 45,980	△ 65,003
教育活動 事業外収支	収入	0	0	98	98
	支出	0	0	0	0
	差額	0	0	98	98
特別収支	収入	3	0	0	3
	支出	0	0	0	0
	差額	3	0	0	3
事業活動 収支	収入	3,067	43,503	207,305	253,874
	支出	20,483	45,105	253,187	318,775
	差額	△ 17,417	△ 1,603	△ 45,882	△ 64,901

3.4 5年間推移（2018～2022年度）



2020年度に運用資産のうち第3号基本金2,000万円を取り崩した。